

解答例

専攻名	数物科学専攻(物理学コース)(一般選抜)	
試験科目名	専門科目 物理学	P. 1 / 5

I

問1 形態1と形態2の状態にある棒の線密度をそれぞれ $\sigma_1, \sigma_2$ とすると,  $\sigma_1 = \frac{M}{\ell}, \sigma_2 = \frac{M}{n\ell}$

問2 棒の重心を原点として, 棒の長さ方向に $x$ 軸をとると,  $I_1 = \int_{-\frac{\ell}{2}}^{\frac{\ell}{2}} \sigma_1 x^2 dx = \frac{M}{\ell} \left[ \frac{x^3}{3} \right]_{-\frac{\ell}{2}}^{\frac{\ell}{2}} = \frac{M\ell^2}{12}$

問3  $I_2$ も問2と同様に計算すると,  $I_2 = n^2 \frac{M\ell^2}{12} = n^2 I_1$ となる。したがって,  $I_2$ は $I_1$ の $n^2$ 倍である。

問4 形態変化の前後で角運動量が保存されるので,  $I_1\omega_1 = I_2\omega_2$ の関係が満たされる。  
したがって,  $\omega_2 = \frac{I_1}{I_2}\omega_1$

問5 求める速さを $v$ とすると,  $v = |x|\omega(t)$

問6 求める抵抗力の大きさを $dF$ とすると,  $dF = kvdx = k\omega(t)|x|dx$

問7  $N = \int |x|dF = \int_{-\frac{n\ell}{2}}^{\frac{n\ell}{2}} k\omega(t)|x|^2 dx = k\omega(t) \left[ \frac{x^3}{3} \right]_{-\frac{n\ell}{2}}^{\frac{n\ell}{2}} = \frac{k\omega(t)}{12} (n\ell)^3$

問8  $I_2 \frac{d\omega(t)}{dt} = -N$

問9 問8の運動方程式に問7の $N$ の表式を入れて積分していく

$$I_2 \frac{d\omega(t)}{dt} = -\frac{k\omega(t)}{12} (n\ell)^3$$

ここで $a = \frac{k}{12I_2} (n\ell)^3$ として積分すると

$$\ln \omega(t) = -at + C \rightarrow \omega(t) = C' e^{-at}$$

$t=0$ のとき,  $\omega(0) = \omega_0$ より,  $C' = \omega_0$

$$\omega(t) = \omega_0 e^{-\frac{k}{12I_2} (n\ell)^3 t}$$

この式に $I_2 = n^2 \frac{M\ell^2}{12}$ が代入されていてもよく, その場合は $\omega(t) = \omega_0 e^{-\frac{k n \ell}{M} t}$

解答例

専攻名	数物科学専攻(物理学コース)(一般選抜)	
試験科目名	専門科目 物理学	P. 2 / 5

II

問1

$$E = I(t)R + \frac{Q(t)}{C}$$

問2

$$\frac{dQ(t)}{dt} = I(t) \text{ と問1より, } E = R \frac{dQ(t)}{dt} + \frac{Q(t)}{C}$$

問3 初期条件が  $t = 0, Q(0) = 0$  より, 問2の微分方程式を解くと

$$Q(t) = CE \left\{ 1 - \exp\left(-\frac{1}{CR}t\right) \right\}$$

問4 求める電流  $I(t)$  は

$$I(t) = \frac{dQ(t)}{dt} = \frac{E}{R} \exp\left(-\frac{1}{CR}t\right)$$

問5 仕事  $W$  は

$$W = Q(t)E = CE^2 \left\{ 1 - \exp\left(-\frac{1}{CR}t\right) \right\}$$

問6 ジュール熱  $J$  は

$$J = \int_0^t I^2(t')R dt' = \frac{1}{2}CE^2 \left\{ 1 - \exp\left(-\frac{2}{CR}t\right) \right\}$$

問7  $W$  と  $J$  の差は問5と問6より,

$$W - J = \frac{1}{2C} \left[ CE \left\{ 1 - \exp\left(-\frac{1}{CR}t\right) \right\} \right]^2 = \frac{1}{2C} \{Q(t)\}^2$$

これはコンデンサーに蓄えられたエネルギーに等しい。

問8  $Q(t)$  の変化を記述する微分方程式は ( $I(t)$  を用いずに書くと)

$$\frac{Q(t)}{C} + L \frac{d^2Q(t)}{dt^2} = 0$$

問9 初期条件が  $t = 0$  で  $I(0) = 0, Q(0) = Q_0$  より, 問8の微分方程式を解くと

$$Q(t) = Q_0 \cos \frac{t}{\sqrt{LC}}, \quad I(t) = -\frac{dQ(t)}{dt} = \frac{Q_0}{\sqrt{LC}} \sin \frac{t}{\sqrt{LC}}$$

問10 全エネルギー  $U$  は下式となる。

$$U = \frac{1}{2}LI(t)^2 + \frac{1}{2C}Q(t)^2$$

問9より,  $I(t)$  と  $Q(t)$  を代入し,  $U = \frac{1}{2C}Q_0^2$  を得る。よって, 時間によらず一定。

解 答 例

専攻名	数物科学専攻(物理学コース)(一般選抜)	
試験科目名	専門科目 物理学	P. 3 / 5

III

問1 1粒子のエネルギーは磁場に平行(上向き)のとき  $-\mu H$ , 反平行(下向き)のとき  $\mu H$  だから,

$$\begin{aligned} U &= -\mu H \times \frac{N+n}{2} + \mu H \times \frac{N-n}{2} \\ &= -n\mu H \end{aligned}$$

問2 ボルツマンの関係式を用いてエントロピーを計算する。微視的状態数  $W$  は全粒子数  $N$  個から上向き  $\frac{N+n}{2}$  個を選ぶ組み合わせの数である。

$$\begin{aligned} S &= k_B \log W \\ &= k_B \log \frac{N!}{\left(\frac{N+n}{2}\right)! \left(\frac{N-n}{2}\right)!} \\ &\simeq k_B \left[ N \log N - N - \frac{N+n}{2} \log \left(\frac{N+n}{2}\right) + \frac{N+n}{2} - \frac{N-n}{2} \log \left(\frac{N-n}{2}\right) + \frac{N-n}{2} \right] \\ &= k_B \left[ N \log N - \frac{N+n}{2} \log \left(\frac{N+n}{2}\right) - \frac{N-n}{2} \log \left(\frac{N-n}{2}\right) \right] \end{aligned}$$

2行目から3行目の変形は、スターリングの公式を用いた。

問3 エントロピー  $S$  を内部エネルギー  $U$  で微分すると逆温度となる。

$$\begin{aligned} \frac{1}{T} &= \frac{dn}{dU} \cdot \frac{dS}{dn} \\ &= -\frac{1}{\mu H} \cdot k_B N \left[ -\frac{1}{2N} \log \left(1 + \frac{n}{N}\right) + \frac{1}{2N} \log \left(1 - \frac{n}{N}\right) \right] \end{aligned}$$

したがって,

$$\frac{1}{k_B T} = \frac{1}{2\mu H} \log \left( \frac{N+n}{N-n} \right)$$

問4 前問と問1の結果より,  $n$  を消去して  $U$  について解くと,

$$U = -N\mu H \tanh \left( \frac{\mu H}{k_B T} \right)$$

グラフは以下の通り。

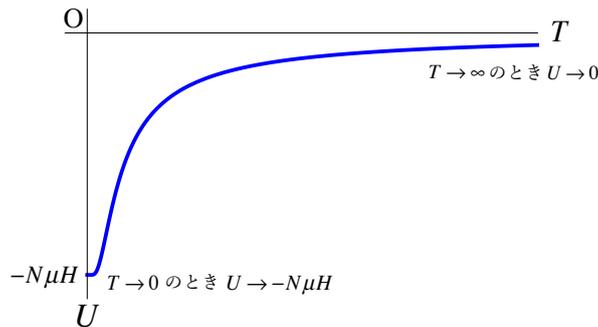


図 3.1

解答例

専攻名	数物科学専攻(物理学コース)(一般選抜)	
試験科目名	専門科目 物理学	P. 4 / 5

問5

$$\begin{aligned}
 C &= \frac{\partial U}{\partial T} \\
 &= -N\mu H \frac{d}{dT} \tanh\left(\frac{\mu H}{k_B T}\right) \\
 &= -N\mu H \cdot \frac{1}{\cosh^2\left(\frac{\mu H}{k_B T}\right)} \cdot \left(-\frac{\mu H}{k_B T^2}\right) \\
 &= Nk_B \left(\frac{\mu H}{k_B T}\right)^2 \frac{1}{\cosh^2\left(\frac{\mu H}{k_B T}\right)}
 \end{aligned}$$

グラフは以下の通り。

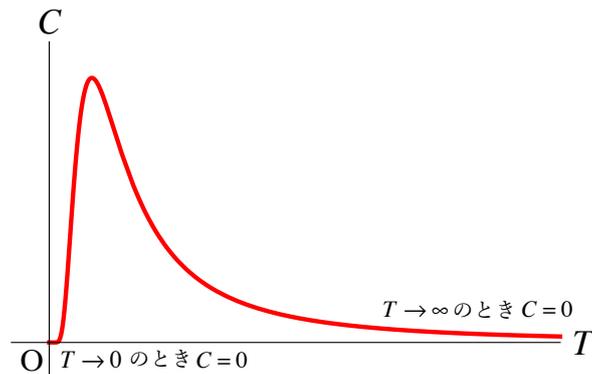


図 3.2

問6 問1と問4の結果を等しいとおき、 $n$ について解く。

$$\begin{aligned}
 n &= N \tanh\left(\frac{\mu H}{k_B T}\right) \\
 &\simeq \frac{N\mu H}{k_B T}
 \end{aligned}$$

ここで、問題文に与えられている近似式を用いた。

問7 系全体の磁気モーメントを計算する。磁気モーメント  $\mu$  である上向きの粒子の個数  $\frac{N+n}{2}$  個、 $-\mu$  である下向きの粒子の個数  $\frac{N-n}{2}$  個だから、

$$\begin{aligned}
 M &= \mu \frac{N+n}{2} - \mu \frac{N-n}{2} \\
 &= \mu n \\
 &\simeq \frac{N\mu^2 H}{k_B T}
 \end{aligned}$$

最後の式変形で問6の結果を用いた。本結果は一定の磁場のもとで磁化が温度に反比例するキュリーの法則を示している。

## 解答例

専攻名	数物科学専攻(物理学コース)(一般選抜)	
試験科目名	専門科目 物理学	P. 5 / 5

## IV

問1  $u$  が満たす方程式を  $H$  と  $E$  を用いて表すと

$$Hu = Eu$$

問2  $H$  を 2 行 2 列の行列で表すと

$$H = -\frac{1}{2}\gamma\hbar \begin{pmatrix} B_z & B_x - iB_y \\ B_x + iB_y & -B_z \end{pmatrix}$$

問3  $H^2$  を 2 行 2 列の行列で表すと

$$H^2 = \left(\frac{1}{2}\gamma\hbar|\vec{B}|\right)^2 \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

問4  $H^2$  の固有値は

$$\left(\frac{1}{2}\gamma\hbar|\vec{B}|\right)^2$$

問5 固有値は  $\pm\frac{1}{2}\gamma\hbar B$  である。固有値  $-\frac{1}{2}\gamma\hbar B$  に対応する規格化された固有ベクトルは

$$\frac{e^{i\alpha_1}}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

であり、固有値  $\frac{1}{2}\gamma\hbar B$  に対応する規格化された固有ベクトルは

$$\frac{e^{i\alpha_2}}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

となる。ただし  $\alpha_1$  と  $\alpha_2$  は任意の実数であり、これらに特定の実数値を代入した答えも正解とする。

問6 時刻  $t$  における波動関数は

$$\psi(t) = \begin{pmatrix} \cos \frac{1}{2}\gamma Bt \\ i \sin \frac{1}{2}\gamma Bt \end{pmatrix}$$

問7 求める期待値は

$$\frac{1}{2}\gamma\hbar \cos \gamma Bt$$

問8  $m_z^H(t)$  と求める期待値は

$$m_z^H(t) = \frac{1}{2}\gamma\hbar(\sigma_z \cos \gamma Bt - \sigma_y \sin \gamma Bt)$$

$$\psi^\dagger(0)m_z^H(t)\psi(0) = \frac{1}{2}\gamma\hbar \cos \gamma Bt$$